

スペインのお勧め
バル・レストラン
 Bares y restaurantes recomendables

Vol. 24
Casa Mingo
 カサ・ミンゴ (Madrid / マドリード)

パンテオンの傍の
 ゴヤの銅像



Casa Mingo
 Paseo de la Florida, 34, 28008 Madrid
 +34 915 477 918
www.casamingo.es

※掲載情報は、2019年7月時点のもので変更
 する可能性があります。



1

スペイン美術を代表する画家フランシスコ・デ・ゴヤが死没した4月16日。知人のジャーナリストに誘われて、ゴヤの眠るマドリードのサン・アントニオ・デ・ラ・フロリーダ礼拝堂を訪れた。プリンシペ・ピオ駅から近いその礼拝堂は、ゴヤのパンテオンとも呼ばれ、その内部には1828年にフランスのボルドーで亡くなったゴヤの墓があり、見上げると天井ドームに画家自身の手によるフレスコ画《聖アントニオの奇跡》が描かれている。観光エリアから外れた小さい礼拝堂ながら訪れる人が絶えない。

この礼拝堂を訪れると必ず立ち寄るのが Casa Mingo だ。もちろん、この日の昼食もここで決まりだ。ゴヤの没した60年後の1888年創業の Casa Mingo は、林檎の発泡酒シードルと鶏の丸焼きを売りにした老舗のタベルナで、古い鉄道の建材のための倉庫を改装した建物に、シードルの瓶を並べたバーカウンターの棚、壁の樽など、この店らしい飾らないどっしりとした趣を残している。平日の昼、スペインのランチにしては少し早めの時間に関わらず、すでに店内は地元客で賑わいはじめていた。とにかく客のほぼ全員が注文するので、鶏を注文するとあっという間にサーブされる。時間をかけてじっくり焼いた鶏は、柔らかくてジューシー。

目まぐるしく新しい店がオープンしては消えていく首都マドリードで、100年以上もマドリレ・ニョたちに愛され続けるのには、やはり確かな理由があるのだ。



2



3



4



5

- 1 自慢の鶏の丸焼き
- 2 地元客で賑わう昼どきの店内
- 3 カウンターの壁に並べられたシードルの瓶
- 4 古い倉庫の時代をしのぼせる石造りの外壁
- 5 店と道を挟んですぐ隣にゴヤの眠るパンテオンがある



中村 美和 / Miwa Nakamura

情報工学修士、日本での電機メーカー勤務を経て、2007年に渡西。マドリードにていくつかの企業のウェブシステム開発等に携わった後、CROSSMEDIA WORKS,S.L.を起業。主に観光や食に関わるプロモーションや、雑誌、ガイドブック、テレビなどの取材コーディネート、マドリード情報を発信する todomadrid.infoなどを運営。 @n_miwa@spain_go

水彩画だより
 vol.9

スペインの風景に魅せられて

スペインの各地を旅するとき、世界遺産、パラドール、白い家と花通りなど、多くの場所で個性的で美しい景色に遭遇し感動します。その思い出を水彩画で楽しく表現しました。



La Alpujarra

残雪シエラ・ネバダ山脈を背景に静かな佇まい

「あの輝く残雪の山の向こうには何があるだろう?」と疑問を抱かせる風景だ——標高3,000m級の山々が連なるシエラ・ネバダ山脈の向こうには、かの有名なグラナダがある。

風光明媚なアルプハーラ街道の標高は1,200~1,400m。真夏でも涼しく乾燥しており、避暑地として最高の場所だ。街道はカビレイラなどの白い村や、生ハム「ハモン・セラーノ」の本場トレベレスを結んでいる。カビレイラは日本人画家の市村修が暮らした村だ。

グラナダは最後のイスラム王朝のボアブディル王が1492年に、レコンキスタの征服者に城の鍵を渡してこの地をキリスト教徒に明け渡した。シエラ・ネバダの険路にさしかかり、宮殿を視界に惜別の涙を流し、集団はこの街道を通り地中海からアフリカ大陸のイスラム国へ渡った。ただし、一部はこの街道沿いに居残ったと伝えられている。

空気のきれいな山道をのんびりと散策し、一帯の昔ながらの佇まいを味わうことができる。好天気の日には地中海が望めるだろう。



La Alpujarra
 アンダルシア州グラナダ
 シエラネバダ国立公園内



牧瀬 貢 / Mitsugu Makise

一般社団法人横浜スペイン語センター前理事長。横浜市戸塚区在住。1961年、ブリクストン横浜工場にエンジニアとして転勤、ここを拠点に数多くの国内・海外経験を積む。ドイツ、カナダ、米国、イギリス、スペインに駐在。短期的な出張を含め世界100ヶ国を経験。とりわけ、最後の駐在地スペインの風土、国柄に惚れ込み、北部バスク・ビルバオに駐在、休暇中に17州51県をまわく廻り、また定年後、思い出の場所での絵画制作を楽しむ。